

**第 36 期**

# **定期株主総会資料**

**期 日 ● 平成18年9月28日(木)**  
**午後3時**

**場 所 ● 望 岳 荘**

**上伊那郡中川村大草4489番地**

**中川観光開発株式会社**

# 定期株主総会次第

1 開 会 の 辞

2 代表取締役挨拶

3 議 長 選 任

4 議 事

第1号議案 第36期事業報告並びに決算の承認について  
・貸借対照表・損益計算書・株主資本等変動計算書  
・監査報告書

第2号議案 第37期事業計画（案）について

第3号議案 取締役及び監査役報酬限度額の決定について

第4号議案 定款変更について

5 閉 会 の 辞

## 第1号議案

第36期 自 平成17年7月1日 事業報告  
至 平成18年6月30日

大手企業の業績が上昇に転じ、マスコミ報道などでは景気に期待感がもたれている昨今ですが、個人レベルでは二極分化が進み、総じて消費マインドはまだまだ冷え込んだままとする見方が強いようです。

このような中、当社におきましては第36期も苦戦を強いられ売上高185百万円（対前年比94.2%、11百万円減）という結果に終わりました。これで、8期連続の前年割れということになります。下期の3・4・5月は前年を上回る結果となり、6月は長雨などの影響で前年割れしたものの底を打ちつつあるように感じられます。

経常利益につきましては、経費削減等が功を奏し210万円（対前年比158.4%、80万円増）の黒字を計上することができました。

また、今期はハード・ソフト両面の改善に着手し、特に皆様からのご指摘も多いソフト面（接客サービス・料理など）の改善に力を入れ、まだまだではありますが、ようやく少しずつ「変わってきた」との声を一部にいただいております。

来期はこれらの改善を引き続き行い、1年かけて一つの形として完成させ、その成果を業績に反映させたいと考えております。

何卒、皆様方のなお一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## 1 会議

### (1) 定期株主総会

平成17年9月27日(火) 於 望岳荘

出席株主数	145人	持株数	1,733株
内本人出席数	34人	持株数	1,332株
委任状出席数	111人	持株数	401株

提出された議案

1号議案	第35期事業報告並びに決算の承認について
2号議案	第36期事業計画（案）について
3号議案	取締役及び監査役報酬限度額の決定について
4号議案	役員の改選について

(2) 取締役会

回数・開催日 5回

9月27日、10月24日、11月2日、1月6日、3月29日

主な協議事項

- ・期中営業状況と対策について
- ・指定管理者制度・管理体制について
- ・いりりテナント募集について
- ・施設の補修について
- ・経費の見直しについて
- ・顧客満足経営の実践
- ・営業力の強化
- ・従業員の結集

(3) 総務部会

4回 10月24日、11月2日、1月6日、3月3日

(4) 営業部会

3回 10月24日、11月2日、1月6日

2 業務概要

(1) 望岳荘の運営

- ・宴会、宿泊客の受入
- ・蜂博物館の管理業務
- ・高齢者憩いの家管理業務

(2) 日曜朝市の参画

(3) 地元生産物の受託販売

(4) マッサージ委託

(5) 入客状況

	宿 泊	宴 会	風 呂	蜂博物館	結 婚 式
第 35 期	7,360人	13,896人	29,223人	7,310人	6組
第 36 期	7,291人	11,682人	28,757人	6,095人	8組
前年比	99.06%	84.01%	98.40%	83.38%	2組

第 3 6 期

# 決 算 報 告 書

平成 17 年 7 月 1 日から

平成 18 年 6 月 30 日まで

中 川 観 光 開 発 株 式 会 社



## 損 益 計 算 書

平成17年 7月 1日から  
平成18年 6月 30日まで  
(単位 円)

I 売 上 高			
宿 泊 売 上 高	68,344,604		
宴 会 売 上 高	58,835,496		
風呂売店食堂自販機売上高	37,762,198		
委 託 管 理 収 入	20,545,000	185,487,298	185,487,298
II 売 上 原 価			
期 首 た な 卸 高		0	
当 期 製 品 製 造 原 価		157,124,998	
合 計		157,124,998	
期 末 た な 卸 高		0	157,124,998
売 上 総 利 益			28,362,300
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費			
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費		25,592,920	25,592,920
営 業 利 益			2,769,380
IV 営 業 外 収 益			
受 取 利 息 割 引 料		6,558	
受 取 配 当 金		400	
雑 収 入		177,580	184,538
V 営 業 外 費 用			
支 払 利 息 割 引 料		821,300	821,300
経 常 利 益			2,132,618
VI 特 別 利 益		0	0
VII 特 別 損 失		0	0
税 引 前 当 期 純 利 益			2,132,618
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	180,000		180,000
当 期 純 利 益			1,952,618

販売費及び一般管理費の計算内訳

平成17年 7月 1日から 平成18年 6月 30日まで		(単位 円)
退職費	635,000	
旅費	109,180	
広告費	917,090	
貸借料	1,259,242	
支払手数料	109,713	
つれてってカード負担金	186,848	
会議費	208,940	
給料手当	13,159,943	
法定福利費	1,620,397	
厚生料	134,796	
事務用品費	206,885	
通信費	1,423,260	
租税公課	3,577,290	
寄付金	3,000	
接待交際費	76,125	
保険料	56,590	
備品消耗品費	264,021	
管理諸費	1,419,600	
諸費	161,100	
雑費	63,900	
合計	<u>25,592,920</u>	

製造原価報告書

平成17年 7月 1日から 平成18年 6月 30日まで		(単位 円)
I 材料費		
期首材料たな卸高	1,026,809	
材料仕入高	24,938,034	
商品仕入高	21,398,841	
合計	<u>47,363,684</u>	
期末材料たな卸高	1,083,183	
当期材料費	<u>46,280,501</u>	
II 労務費		
給料手当	25,305,967	
雑給	11,512,900	
法定福利費	3,670,991	
厚生費	604,739	
当期労務費	<u>41,094,597</u>	
III 経費		
支払家賃	4,500,000	
外注委託費	14,423,540	
電力費	8,974,254	
燃料費	10,099,251	
水道下水道料	6,000,243	
減価償却費	516,887	
修繕費	8,657,401	
借借費	5,406,046	
消耗品費	6,929,557	
車両諸掛費	3,112,257	
ごみ処理費	749,502	
雑費	380,962	
当期経費	<u>69,749,900</u>	
当期総製造費用	<u>157,124,998</u>	
期首仕掛品たな卸高	0	
合計	<u>157,124,998</u>	
期末仕掛品たな卸高	0	
当期製品製造原価	<u>157,124,998</u>	

たな卸資産の計算内訳

平成18年 6月 30日現在		(単位 円)
商品・原材料	1,083,183	
貯蔵品	1,965,933	
合計	<u>3,049,116</u>	



# 株主資本等変動計算書

平成17年7月1日から平成18年6月30日まで

中川観光開発 株式会社

P-1

(単位：円)

	株主資本						株主資本合計	評価・換算差額等	新株予約権	純資産合計
	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	その他利益剰余金				
	資本準備金	その他資本剰余金	利益準備金	その他利益剰余金						
前期末残高	21,300,000	0	0	0	-18,561,031	0	2,738,969	0	2,738,969	
当期変動額										
当期純利益					1,952,618		1,952,618		1,952,618	
当期変動額合計	0	0	0	0	1,952,618	0	1,952,618	0	1,952,618	
当期末残高	21,300,000	0	0	0	-16,608,413	0	4,691,587	0	4,691,587	

中川観光開発 株式会社

P-2

## ■その他資本剰余金及びその利益剰余金の内訳書

(単位：円)

	その他資本剰余金の内訳				その他利益剰余金の内訳				繰越利益剰余金	その他利益剰余金合計
	資本剰余金		利益剰余金		資本剰余金		利益剰余金			
	資本準備金減少額	自己株式処分差益	自己株式	その他資本剰余金合計	別途積立金	その他利益剰余金合計	繰越利益剰余金	その他利益剰余金合計		
前期末残高	0	0	0	0	0	0	0	-18,561,031	-18,561,031	
当期変動額										
当期純利益								1,952,618	1,952,618	
当期変動額合計	0	0	0	0	0	0	0	1,952,618	1,952,618	
当期末残高	0	0	0	0	0	0	0	-16,608,413	-16,608,413	

## 個別注記表

平成17年 7月 1日から  
平成18年 6月 30日まで

### I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. たな卸資産の評価基準及び評価方法  
最終仕入原価法による原価法を採用しております。
2. 固定資産の減価償却方法
  - (1)有形固定資産  
定率法を採用しております。
  - (2)無形固定資産  
定額法を採用しております。
3. 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は税込方式を採用しております。

### II. 貸借対照表等に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 58,430,666円

### III. 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式総数 2,130株

### IV. 一株当たり情報に関する注記

1. 一株当たり純資産額は、2,202.62円であります。
2. 一株当たり当期純利益は、916.72円であります。

中川観光株式会社

代表取締役 曾 我 逸 郎 様

平成 18 年 8 月 18 日

監査役 富永 松雄



監査役 松村 隆一



### 第 36 期 事業年度監査結果報告書

第 36 期事業年度監査を下記のとおり実施しました。その結果を次の通り報告します。

#### 記

1 実施年月日 平成 18 年 8 月 18 日 (金)

2 監査結果

期末決算に関する 6 月末現在の、関係帳簿及び証拠書類の処理は、担当会計事務所により PC 管理されており、補助簿とも正確かつ適切に処理されていることを認めた。

3 監査所見

① 今期の総売上額は、18,548 万円となり、対前年度比 94.19%で 1,144 万円の減となったが、経常利益は 213 万円で同比 158.3%で 79 万円の増となった。

例年の例により、下半期の売り上げ減により年間成績は上記のようになったが、年間を通しての売り上げ向上策を期待したい。

② 売上原価は、材料費・労務費で削減の努力が見られるが、経費の中の燃料費は対前年比 10.1%の 93 万円の増であり、修繕費は同比約 2 倍の 865 万円となっており、施設の老朽化に対する手当の方法等、早急に検討する時期である。

③ “いろり”の後利用が始まり、徐々に利用者の数も落ち着いてきているようであるが、各施設とも賃貸契約時に電気量・水道料等の経費負担についてきちんと見直す必要がある。

## 第2号議案

第37期 自 平成18年7月1日 事業計画（案）  
至 平成19年6月30日

前期同様経営環境は厳しい状況が続きますが、運営方法等の改善を図りお客様に支持していただける施設にしていまいります。ここ2期くらいの間にはこのことが出来なければ、会社の存在意義もなくなる可能性もあり危機感を持って運営してまいります。

そういった意味において、第37期は望岳荘にとって「経営の健全化のターニングポイント」と位置づけ従業員が一丸となって経営改善のため努力してまいります。その為には今年に入って掲げました次の3点を継続して行い完成させます。

### ① 顧客満足経営の実践

ソフト面……この業界は人と料理が全てと言っても過言ではありません。その2つが何故低い評価状態にあるのか、ひとつひとつ検証し話し合い立て直しを図り、お客様に支持していただけるものにしていきます。

ハード面……施設の老朽化が進んでおりますが、前期同様、利益とのバランスを考えながら修繕や手直しをしてお客様に快適にお過ごしいただけるよう努めてまいります。

### ② 営業力の強化

インターネットによる営業力強化の基礎は出来つつあるので、それを応用・発展させて参ります。

伊那谷という線の上の一点として中川の観光を見ることで他市町村の施設との連携を模索し、誘客に結び付けてまいります。また、逆に村内での合宿や農業体験など中川村だけに滞在していただく方法も検討していきます。

### ③ 従業員力の結集

全ての改善は、従業員ひとりひとりが、その持てる力を存分に発揮できるかにかかってまいります。その前段階として個々のモチベーションを如何にあげ維持していけばよいかを考えていかねばなりません。ひとつの方法として“従業員同士の対話”を重視し、意見のぶつけ合いをしてよりよいものを取り入れ業務内容改善に役立てます。対話の中から全員参加の意識を持ち、そのことが能動的行動につながり、結果個々の特長が発揮されてくる、その力どうしの結集こそが改善の源になると考えます。

このような方針で、必ずやお客様の信用を取り戻し、売上・利益を上げ経営を安定させてまいります。

引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

## 目 標

単位：千円

区 分	第 37 期 計 画	第 36 期 実 績
宿 泊	64,000	68,345
宴 会	66,000	58,835
そ の 他	38,200	37,762
委 託 収 入	15,400	20,545
純 売 上 高	183,600	185,487
製 造 原 価	153,000	157,033
売 上 総 利 益	30,600	28,454
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	28,500	25,685
営 業 利 益	2,100	2,769
営 業 外 ( 費 用 )	△ 1,100	△ 636
経 常 利 益	1,000	2,133
特 別 損 益 他		
当 期 利 益	1,000	2,133

### 第3号議案

#### 取締役及び監査役報酬限度額の決定について

今期取締役報酬の額を 400,000円以内として、支出の方法は取締役会に一任する。

今期監査役報酬の額を 100,000円以内として、支出の方法は取締役会に一任する。

### 第4号議案

#### 定款変更について

平成18年5月1日 会社法が、施行されました。

「会社法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」により経過措置、特則の適用をうけます。

整備法にみなし規定がある場合は、法律により定款変更されたものとして取り扱われますので、この定時株主総会においてみなし規定部分を定款変更したいと思います。

用語等の見直し等が行われたもの

- |                 |       |                          |
|-----------------|-------|--------------------------|
| (1) 発行する株主の総数   | …………… | 発行可能株式総数                 |
| (2) 営業年度        | …………… | 事業年度                     |
| (3) 利益の配当       | …………… | 剰余金の配当                   |
| (4) 総株主の議決権の過半数 | …     | 議決権を行使することができる株主の議決権の過半数 |

規定の変更があったもの

就任後 ……………… 選任後